

## COP21 で決まったこと。

11月30日～12月13日まで、パリにおいて気候変動枠組条約第21回締約国会議（COP21）が行われました。

従来、地球温暖化対策を進めたい先進国と、経済発展を優先させたい途上国の間で、考え方の溝があったのですが、今回採択された「パリ協定」により、一定に成果を得ることができました。

- ・世界共通の長期目標として2℃以内という目標のみならず1.5℃への言及
- ・主要排出国すべてが削減目標を5年ごとに提出・更新
- ・先進国が引き続き資金を提供することと並んで途上国も自主的に資金を提供などが、協定に盛り込まれました。

次回COP22は2016年11月にモロッコ。マラケシュにて開催予定です。

## 「Eco列車でいこう!」～第78回 函館まで・・・

(CO2排出量の少ない交通機関での旅行を応援していくコーナーです!)

来年3月に新幹線が函館まで延伸するという。1988年に青函トンネルが開通し、青函連絡船が廃止されてから28年。ますます北海道が身近になってきた。

北島三郎が「は～るばるきたぜ。函館～」と歌った「函館の女(ひと)」は1965年の作品。当時の函館はさぞかし遠い土地だったことだろう。

さて、「は～るばるきたぜ。函館～」を現代でも実感することができる。鈍行で函館に行く方法だ。

新潟駅を早暁6:07にスタート。新発田で羽越本線に乗り換える。村上を過ぎると左手に日本海が現れる。景勝笹川流れた。

酒田ではわずか3分の乗り換えで今度は秋田へ向かう。途中の象潟(きさかた)は、かつて「東の松島西の象潟」と呼ばれた景勝地であったが、地震で土地が隆起してしまった。「奥の細道」最北の地でもある。

秋田で駅弁を仕入れて北へ向かう。バスケットで有名な東能代、比内地鶏の産地大館を通過して、弘前。更に乗り換えて青森へ。

青森の観光をしたいところだが、わずか10分後に蟹田行きに乗車。おばあさんたちの難解な津軽弁に聞き耳を立てるのも楽しいだろう。津軽半島の西側、陸奥湾を望む蟹田からは、特急に乗る。津軽海峡線には鈍行は走っていないから仕方がない。

ついに北海道に入り、港町木古内に着くのは17時過ぎ。ここでこの旅唯一の長時間休憩ができる。居酒屋か寿司屋で地元の味を堪能するのもよいだろう。

江差線に乗車して20:10函館着。その足で函館山に登ろう。100万ドルの夜景を見ながら「函館の女」を口ずさみたい。

ちなみに青春18キップなら鈍行乗り放題5日分¥11,850なので、1日分の¥2,370で函館まで行くことができる。

### 【スケジュール】

新潟	6:07 発
新発田	6:45 着
	6:48 発
酒田	9:32 着
	9:35 発
秋田	11:25 着
	11:42 発
弘前	14:19 着
	14:25 発
青森	15:14 着
	15:24 発
蟹田	16:18 着
	16:25 発
	(特急スーパー白鳥/青春18きっぷでの乗車可)
木古内	17:13 着
	18:57 発
函館	20:10 着
	(バスで函館山へ)